

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

①児童生徒・学校の実態

1.校則に関して

- ・他の高等学校や中学校から比べても、細かく厳しい内容の校則が多かった。
- ・大人の視点からの昔ながらの古い校則が多く、子どもを信じて、子どもに任せてみようというものはなかった。

2.教師の意識

- ・しかし、2019年度から、マルチレベルアプローチ(MLA)を取り入れた、プロアクティブな生徒指導の取り組みを開始し、一変した。
- ・教員がしっかり学び、専門性とチーム性を高め、効果的な実践を行い、教師が生徒のいいところを見るようになり、生徒と教師の対話が増え、生徒が成長し、思いやりと温かな学校風土が醸成し、生徒にルールメイキングを任せてみようというように教員の意識が変化した。
- ・教師の校則への考えも「なんでも禁止」から「教えて解禁」へとシフトした。

②ねらい(目標)

- ・生徒のWell-beingの実現を目指し、生徒が「ルールメイキング(校則改訂)」に主体的に参加し、対話を通して、互いを尊重できる人間尊重の意識を高め民主的な態度を育成する。

③活動内容

1. 生徒の自治的活動による「ルールメイキング」の取組

- (1)生徒のプロジェクトチームの発足
- (2)改訂したい校則の洗い出し
- (3)生徒によるグループスーパービジョン形式での話し合い
- (4)教師・保護者へのプレゼンテーション
- (5)校則の改訂



2. 教師の研修

- ・教師の専門性とチーム性を高める継続的で体系的な研修の実施

2024年度

- 5月 生徒総会、有志募集
 - 6月 チームルールメイキング発足
昼休みの話し合い開始
 - 7月 他の高校生と交流会(ズーム)
「ルールメイキングにキックオフ」
第1回全校集会で課題整理(グループワーク)
 - 夏休み 他校・企業交流会
 - 9～11月 昼休み活動:生徒総会に向けて課題設定、情報収取
 - 12月 第2回全校集会で提案・見直し
 - 1月 臨時職員会議に生徒から提案
原案の見直し検討
 - 2月 職員会議、卒業式前1週間試行
- 2025年度
- 5月 PTA総会で提案予定

[課題3]

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

④成果

1. 生徒の自治的な活動の活発化
 - (1) 生徒が自主的に検討チーム参加
 - (2) 生徒会役員選挙の公約の実現
 - (3) 民主的手続きによる規則改訂の経験
 2. 自己有用感・効力感の醸成
 3. 生徒と教師の信頼感の高まり
 4. マルチレベルアプローチ(MLA)を取り入れた教育による、プロアクティブな生徒指導の定着と深化→生徒のコミュニケーション力・課題解決スキルの向上
 - (1) 他者への関心
 - (2) 自己理解・他者理解
 - (3) 共感スキル
 - (4) サポート・信頼・ストローク
 - (5) コミュニケーションスキル
 - (6) 課題解決スキル
- 以上、順序性を持たせたトレーニングの効果

⑤課題

1. ルールメイキング
 - (1) 生徒の話し合いの時間の十分な確保
 - (2) 生徒と教師の話し合いの時間の十分な確保
 - (3) 大人のマインドセットの転換
2. 学校体制・教員研修
 - (1) 教師の専門性とチーム性向上のための体系的研修継続のための、十分な質と時間の確保
 - (2) プロアクティブな生徒指導継続のための学校組織としての維持システムの構築
 - (3) 教員の異動による継続的取り組みへの不安の解消
3. 人間尊重の教育に関しての、幼・小・中・高の連携
4. 就学前や小・中学校段階での、プロアクティブな生徒指導プログラムの導入

⑥今後の取組の方向性

1. ルールメイキング
 - (1) 次年度のPTA総会での生徒からの提案
 - (2) 校則の改訂
 - (3) 実施後の振り返り・見直し
2. 教員研修と働き方改革
研修時間の確保が、必ずしも、働き方改革の業務削減に相反するものではないという意識転換(※研修時間が削られ、教師の専門性が低下し、生徒指導困難事例に対応できなくなり、自信を失い、さらに生徒指導案件が増え続けるという悪循環を断ち切る。)
3. 他校への普及
他校へのプロアクティブな発達支持的生徒指導研修の提供

[課題3]

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-1 参考資料(生徒が教師にプレゼンしたスライド 1)



ルールメイキング

スマホ使用についての提案



最上位目標

1

生徒が主体的に参加し、対話を通して、互いを尊重できる民主的な態度を育てる

2

みんなでルールメイキングを進めるために

ルール

1 誰ひとり置きざりにしない
(全員で納得解を見つける)

2 多数決をとらない
(少数派を切り捨てない)

提案までの流れ



- 活動報告・・・5～8
- 全校集会報告・・・9～12
- 生徒アンケート・・・13
- スマホのルール・・・14～16
- 提案・・・17～19

活動報告



北海道・東北交流会

今年度は(株)コエルワ主催の2回の交流会に参加しました。そこでは、北海道や東北の中学生や高校生、先生と交流をしました。



企業交流会

ANAクラウンホテル札幌との企業交流では、企業の理念やルールについて学びました。



交流会で得た情報

- ・他校では校則の見直しがありされていない
- ・他校(特に中学校)の校則はかなり細かいし、厳しかった
- ・ホテルの身だしなみのルールがかなり厳しかった
- ・ルールメイキングをやっているメンバーが少なかった

全校集会報告



第一回全校集会

第一回全校集会では、各学級ごとに別れて、「豊明がもっと楽しく、過ごしやすくなるためには?!どうなったらいい?」というテーマで、色々な意見を出し合いました。



全校生徒の意見



第二回全校集会

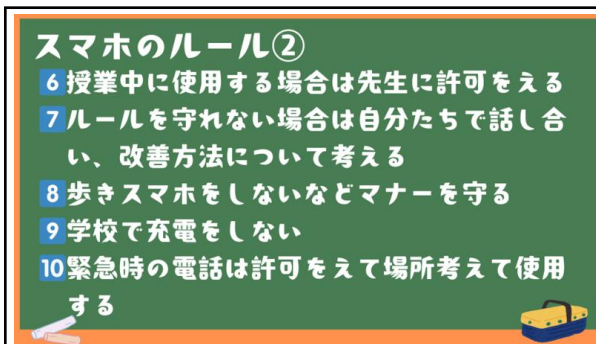
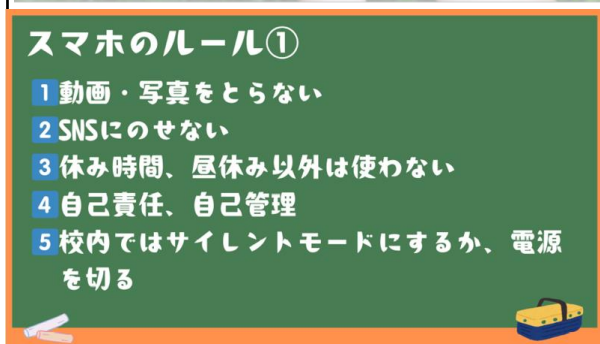
第二回全校集会では、第一回全校集会の意見が多かった、スマホ使用に向けてのルールを提案し、質問や意見を集めました。



【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-2参考資料(生徒が教師にプレゼンしたスライド 2)



3学期始業式の日放課後に臨時職員会議が開催され、生徒会有志による、ルールメイキング検討チームの生徒から、先生方に提案がなされた。普段は、どちらかと言うと、教師に甘えて和気あいあいと交流する生徒と教師の関係から、提案者と提案を受ける立場になり、緊張した雰囲気の中で会議がスタートした。

教師側からは、かなり突っ込んだ質問もあり、生徒が何と答えるのかとハラハラドキドキ・・・「持ち帰って検討します」と生徒代表が答弁。生徒の成長を感じる場面でした。

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-3参考資料(ルールメイキングの話し合いに向けたトレーニングと授業の約束)

ピア・サポートプログラムの内容と構造

トレーニング
Training

【ポイント】

- ・**順序性**
- ・活動に応じた練習内容



26

MLA の授業の約束

みんなに協力してもらいたいこと

・学習の約束

① 真剣にとりくむ(ふざけない)② 仲間の意見を大切にする(否定しない)

話がしやすい雰囲気づくりを心掛けましょう！

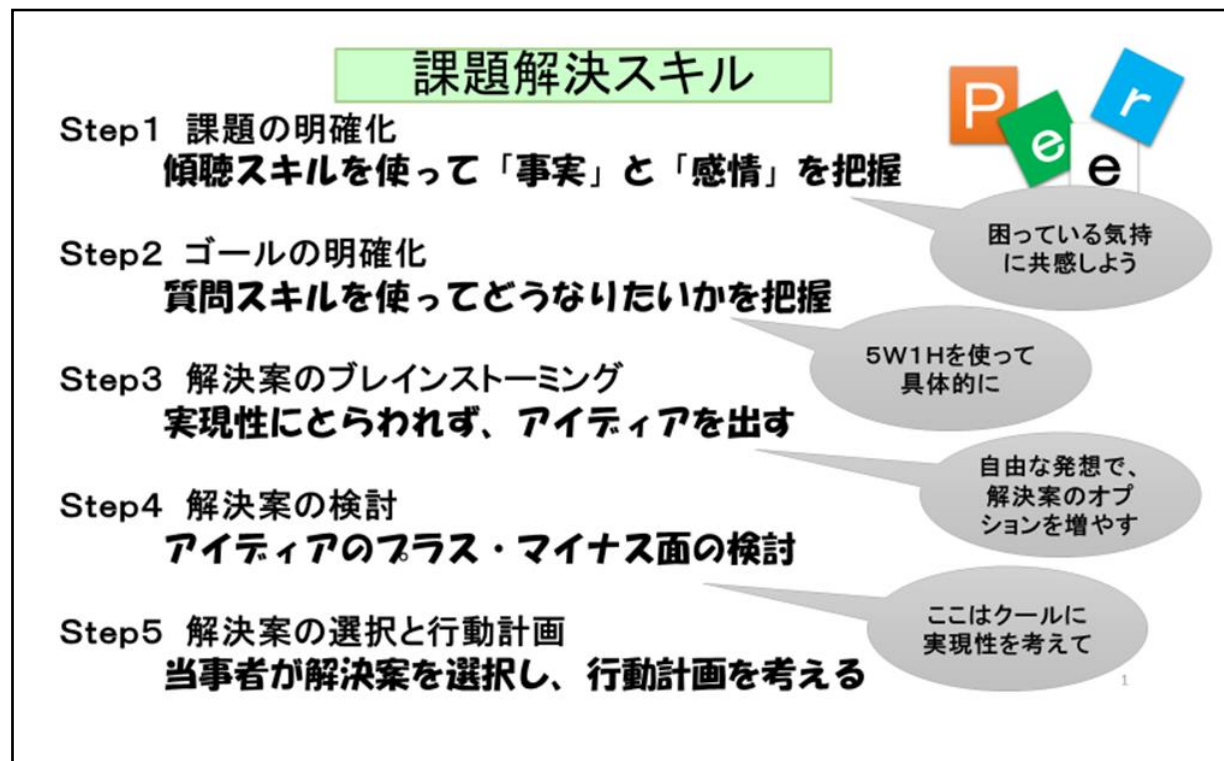
④の成果に示した、生徒のコミュニケーション力・課題解決スキルの向上へのトレーニングには順序性があり、そのことを教師が研修で学び身に付ける必要がある。その内容は、MLAプログラム(SEL、PBIS、ピア・サポート、協同学習)のうちの1つである「ピア・サポート」の研修で学ぶことができる。

MLAでは、上記の約束を授業のたびに確認している。これが守れないと、生徒の心理的安全が保たれなくなり、対話的な学びが成立しない。ルールメイキングの話し合いには欠かせないポイント。

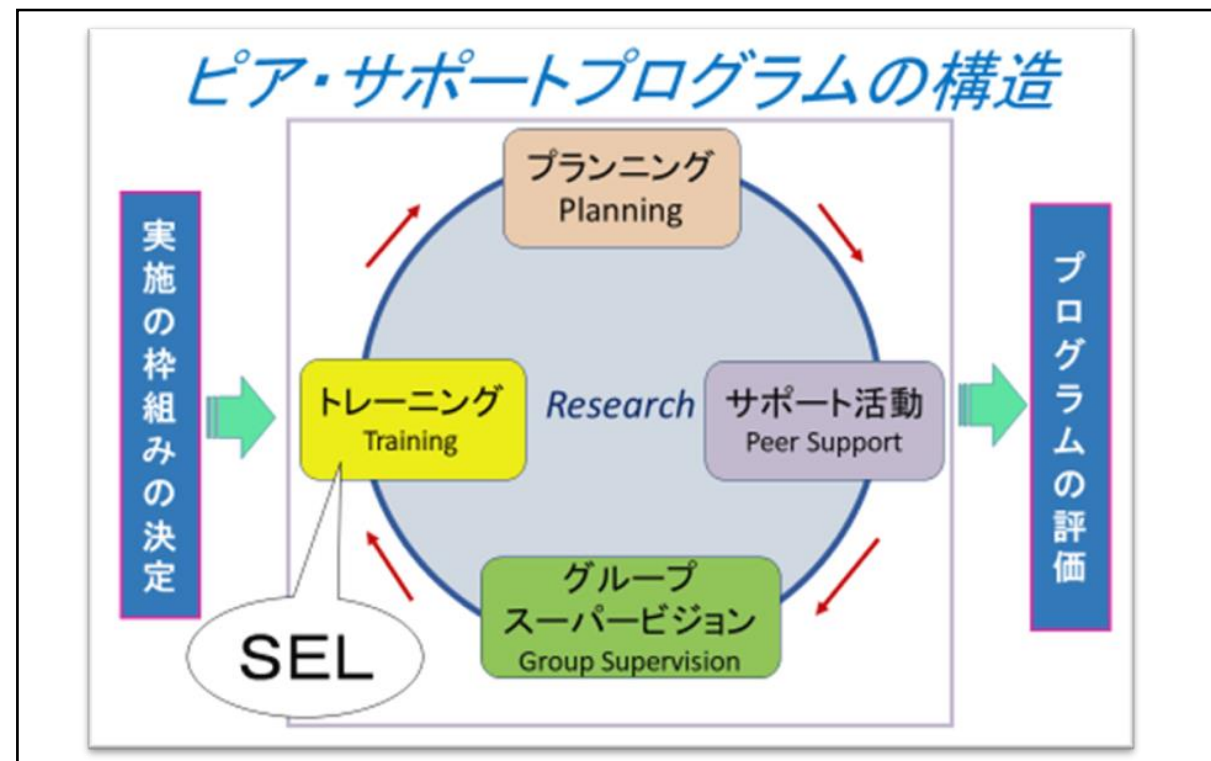
【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-4 参考資料



課題解決スキルの5つのステップ



ルールメイキングでは、特に、グループスーパービジョンを重視する。正に、「主体的・対話的で深い学びに繋がる。これも、ピア・サポートの研修で詳しく学べる。

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

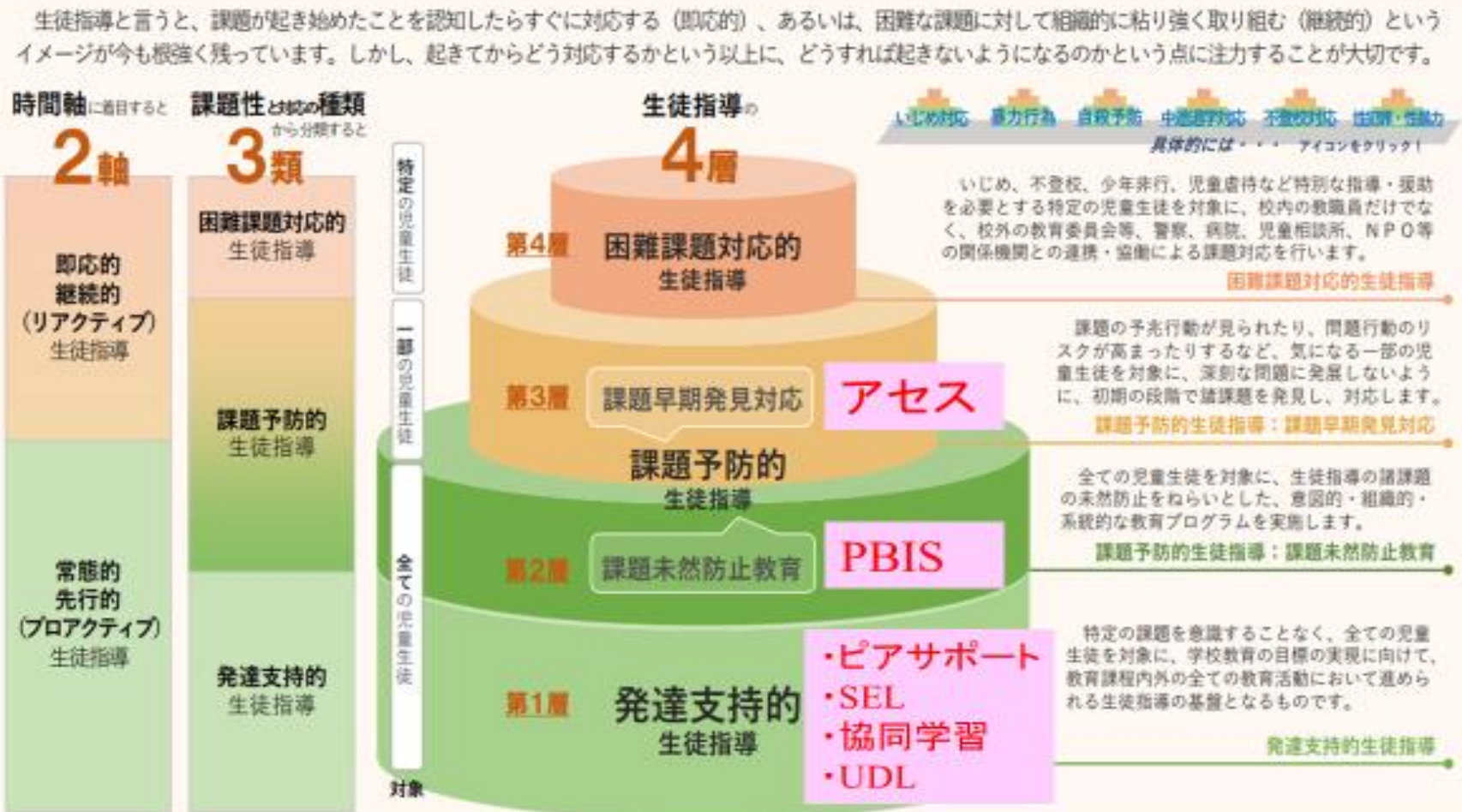
⑦-5参考資料

改訂された、生徒指導提要と、マルチレベルアプローチ(MLA)の4つのプログラム(SEL、PBIS、ピア・サポート、協同学習)と、学びのユニバーサルデザイン(UDL)との関連は右図の通りである。

第3層のところにある「アセス」は、生徒理解のための学校適応感尺度アンケートである。

本校では、2019年度から、これらを取り入れた教育を展開し、成果を上げ、今回のルールメイキングの試行につなげた。

生徒指導の構造（2軸3類4層構造）



【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-6参考資料(MLAプログラムの全体像)



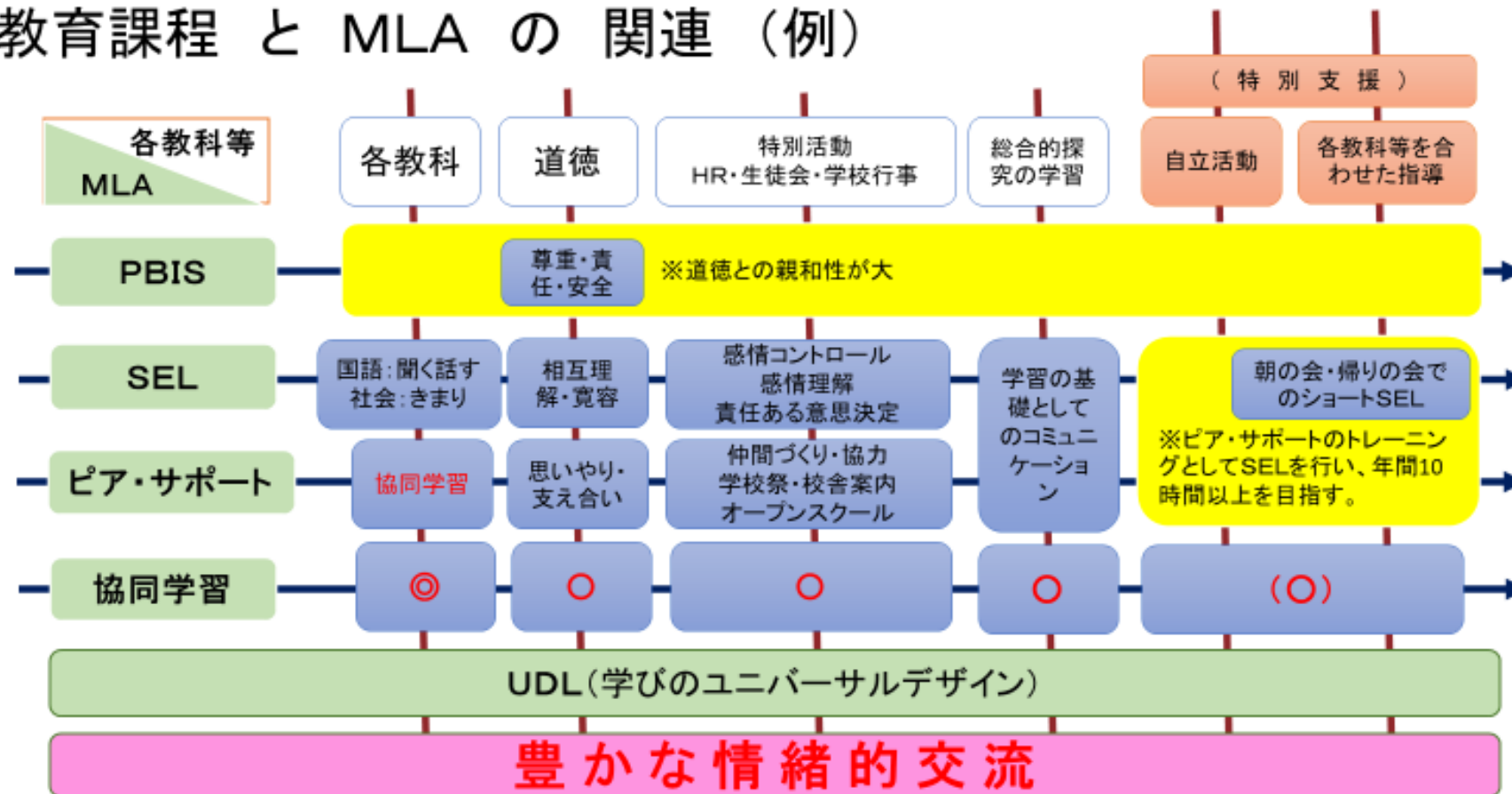
本校では、順序性を持たせて、MLAを導入した。まず、SEL(社会性と情動の学習)で、感情理解、感情コントロールを含むソーシャルスキルを身に付ける。次に、スキルだけ身に付いても「あいつとは関わらないほうがいい」というスキルを発揮してしまうと人間関係が生まれないので、PBIS(ポジティブな行動介入と支援)で、思いやり行動には価値があると学び、行事などの実際のピア・サポート活動で発揮する。そして、授業の中でのピア・サポート活動が協同学習である。さらに、豊かな情緒的交流がそれらの基盤となり、学びのユニバーサルデザイン(UDL)で学習環境を整備する。

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-7参考資料

教育課程 と MLA の 関連（例）



MLAは、今までやってきたことがほとんど！

本校では、左図のようにMLAを教育課程に位置付けて実施している。

縦串が、学習指導要領上の整理で、横串がMLAから見た整理になる。目的はどちらも同じなので、心理・社会的発達を目指すためにはMLAにこだわらなくてもかまわないが、MLAは理解してしまえば、簡単なので、学校全体でも共通言語として使えて、体系的にまとまっているので使いやすい特徴がある。

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-8参考資料

研修会のコーディネートをお願いします

- 本市における特別支援教育のセンター的機能校として、職員研修会や校内研修会(生徒指導、生徒理解)等に、講師を派遣します。

例①「アセスと児童生徒理解」

問題行動の現象面を何とかしようとアプローチしても、ますます状態が悪化することはありませんか？アセス(学校適応感尺度アンケート)の使用方法や理論に基づくアセスメントについて学びます。

例②「MLA(マルチレベルアプローチ)概論」

生徒指導提要在新しくなり、生徒の発達や成長を支持して、問題行動の予防や未然防止に重点を置くようにすることが求められています。「では、具体的にどうすればいいの?」。本校の実践を交えてお伝えします。

例③「修復的正義とメディエーション」

対立やケンカが起こったとき、どうやって対応していますか?「あいつは許せない…」など、過去のわだかまりを聞かされたことはありませんか。メディエーションについて演習を交えて研修します。

例④「SEL(社会性と情動の学習)」

「主体的・対話的で深い学び」とは言うけれど、コミュニケーションが不得意、感情コントロールが苦手な子がいると「対話なんて無理では?」と思ったことはありませんか? SELはSSTに感情理解や感情コントロールを合わせた教育プログラムです。

その他 ご相談ください

MLAは、高校生年齢からでも効果はあるが、就学前や、小・中学校からの導入が、さらなる効果を生むことが、先行研究で明らかになっている。

本校は、特別支援教育のセンター的機能校として、他校に向けて、プロアクティブな発達支持的研修を提供している。

提供しているMLA研修会の例を左図に示す。
MLA研修の特徴:すぐに使える実践に結び付いた理論。教師の交流を促す対話型。体系的に整理された持続的な内容。意欲と自信の向上を図る構成etc

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-9参考資料(参考図書 1)

ほんの森出版

■すぐ始められるピア・サポート～指導案&シート集

〔森川 澄男/監修 菱田 準子/著〕

ピア・サポートプログラムの指導案や使えるシートが参考になります。

ほんの森出版

■PBIS実践マニュアル&実践集

〔栗原 慎二/編著〕

PBISについて理論的解説と、実際に使える資料などが盛りだくさん。

明示図書

■ピア・サポートを生かした学級づくりプログラム

〔山口 権治/著〕

問題解決の力を身に付けるポイントやワークシート付のプログラムが収録。

ほんの森出版

■ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法(DVD付)

〔池島 徳大/監修・著 竹内 和雄/著〕

ピア・サポートの最上位の「対立解消」。教師が身に付けても役立ちます。

ミネルヴァ書房

■社会性と情動の学習 (SEL-8S) の導入と実践

〔小泉 令三/著〕

■社会性と情動の学習 (SEL-8S) の進め方 (小学校編)

〔小泉 令三・山田 洋平/著〕

■社会性と情動の学習 (SEL-8S) の進め方 (中学校編)

〔小泉 令三・山田 洋平/著〕

改正された生徒指導提要では、「SEL」が明示され、感情理解、感情コントロール、感情表出を含むソーシャルスキルの重要性が示されました。本書で紹介されている指導案や図は、Web上からワードでダウンロード出来て、学級の状況に合わせて作れます。

【課題3】

子どもの権利に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦-10参考資料(参考図書 2)

世界文化社
■こどものきもちをはぐくむ
紙芝居作成ブック(CD-ROM付)
[小泉 令三・山田 洋平/著]

就学前の子どもたちに最適の、
SEL満載の一冊です。

ほんの森出版
■マルチレベルアプローチ
～だれもが行きたくなる学校づくり
[栗原 慎二/編著]

「生徒にルームメイキングを任
せてみよう」とシフトできたの
は、この1冊から。

東洋館出版社
■UDL 学びのユニバーサルデザイン
[トレイシー・E・ホール、アン・マイヤー、
デイビット・H・ローズ/編著]
[バーンズ 亀山 静子/訳]

全ての児童生徒にとって学びやすい学習
環境整備は、良質な生徒指導と言えます。

ほんの森出版
■教育相談コーディネーター
これからの教育を創造するキーパーソン
[栗原 慎二/著]

プロアクティブな生徒指導の
具体的なコーディネートにつ
いて満載です。

ほんの森出版
■アセスの使い方・活かし方
[栗原 慎二・井上 弥/編著]

MLA展開のためには、研修の
次に重要なのが児童理解です。